

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171100266		
法人名	株式会社サンボウ		
事業所名	グループホーム めくもりの里(せせらぎ)		
所在地	千歳市住吉4丁目8番14号		
自己評価作成日	令和 5年1月20日	評価結果市町村受理日	令和 5年 4月 18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0171100266-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和5年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは認知症を患う方々を、その人らしい暮らしが出来るよう常に工夫・創造しながら支援させていただいています。また、地域密着型事業所としての役割を理解し、地域と福祉、医療との連携を深めて地域へ情報を発信し、地域資源の一つとして機能出来るよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は千歳駅からバスで10分ほどのところにある。付近には生協やドラッグストア、飲食店、小中学校が点在する住宅街にある。鉄筋コンクリート造り3階建て、1階が「せせらぎ」2階が「こかげ」の2ユニットのグループホームで、3階がグループハウス「めくもりの家」となっている。めくもりの家とは日常や行事を通して交流をしていたが、コロナ禍のため現在は中止をしている。地域行事の交流も自粛をしているが、回覧板から地域情報を得たり、利用者が近所の桜の花を見に行ったり、挨拶や言葉を交わす関係継続の支援をしている。困難事例の際には「ちとせ介護医療の会」と連携し、協力医療機関や行政から多くの支援を受けている。職員の研修は毎月のユニット会議で内部研修や拘束ゼロ委員会で、身体拘束や心理的虐待を学び、禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し、ケアに取り組んでいる。家族や友人との面会は玄関内での窓越し支援や理美容師の訪問、ドライブで馴染みの場所へ花見に行くなど、心身の活性化を図り機能維持に努めている。また、利用者はお盆に自宅へ帰り家族と共にお墓参りに出かけている。家族に向けては、めくもり通信と共に利用者の詳細な状況を手紙で伝え、家族の安心につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての役割を理解し、理念を職員一同共有しながら実践できるよう努めている	地域密着型サービスを意識した理念を玄関や事務室、共用空間の見やすい所に掲示し、日々のケアの中で共有を図っている。新人職員には理念の意義を具体的に伝えとくに振り返りを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスにより地域とのつながりが減少している。以前は町内会開催の催事へ参加していたが、町内会での催事はほぼ開催されていない。	コロナ禍により地域行事は自粛しているが、回覧板から地域の情報を得ている。春は近所の桜を見に行ったり、家庭菜園の花や野菜を眺めに出た際は住民と挨拶や会話などで交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解や支援の方法を地域の方に向けて活かしている。見学や電話にて相談いただいた方に対して、介護保険や認知症等について助言することもある。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際、評価の取り組み状況などについて定期的に報告しているが、現状は事業所の広報誌等と併せて紙面での提出報告となっている。	運営推進会議は書面会議となっている。2カ月毎の活動報告や利用者状況、行事、職員研修等を議事録に記録し「めくもり通信」と共に、地域包括支援センター職員、家族へ送付している。	コロナ禍で運営推進会議での意見交換の場が希薄な状況となっているので、他の会議構成員にも会議議事録や「めくもり通信」を配布し積極的な働きかけで双方向的な会議になるよう期待したい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市担当者とは電話や窓口での各種書類申請や提出で助言や意見を得ている。困難事例発生時には、地域包括支援センターや社会福祉協議会などから物資や助言を受け、連携した協力体制を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に行っているユニット会議のなかで、身体拘束について話し合いを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月開催のユニット会議で拘束ゼロ委員会開催や研修を実施している。身体拘束、心理的虐待の資料を基に学び、弊害について理解し身体拘束のないケアに努めている。ズーム研修はユニット会議の中で報告し、全職員が共有している。	ユニット会議の中で毎月「拘束ゼロ委員会」開催や研修を実施している。これらの積み重ねを指針の見直し機会にする等より充実した内容への発展に期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	会議や日々の話し合いの中で虐待について学び、虐待防止に努めている。			

グループホーム ぬくもりの里(せせらぎ)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じてご家族や弊社職員との相談及び検討、関係者と相談する。しかし、現状対象となる方がおらず、資料の配布及び掲示にて個人での理解を求めている。研修会等の開催は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時には、契約書等を用いたの文書及び口頭説明を行う。入退去後も不安や疑問点が生じた場合、都度、説明を行い理解・納得いただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会や電話連絡の際に意見・要望等をお聞きし、業務に反映するよう努めている。	家族には運営推進会議議事録やぬくもり通信と共に、利用者の生活状況を手紙で伝えている。入居間もない利用者からの家族に会いたいという要望は職員間で共有し、玄関先での面会を支援している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談時や業務中に上がった提案等を聞き、必要に応じて話し合いを設け、反映に務めている。	管理者と職員との面談は必要に応じ、話し合いの機会を設けている。職員は各種委員会に所属し、運営に参加して毎月のユニット会議で意見・提案を出している。利用者と職員の馴染みの関係に配慮した勤務体制も今後、検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、必要に応じて個人面談の場を設け、また、各ユニットリーダー等からの報告を受け、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルアップに繋がるよう、内部・外部研修への参加や資格取得を促し、機会を設けるよう努めている。また、関係者と共に教育方法について検討・相談に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「絆の会」や「ちとせ介護医療連携の会」による研修が、勉強会が行われている。コロナにより直接的な交流は減少しているが、Zoomでの参加の場が設けられている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の段階から、困っていること、不安、要望などに傾聴し、本人様の安心を確保し、信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時期から家族様が困っていること、不安、要望に傾聴しながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談において、ご本人様とご家族様が知ろうとしている支援を見極め、他のサービス利用も含め、対応に務めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	安心して生活できるよう、また、自宅で生活しているような洗濯物たたみや食器洗い、食器ふきなどを共有しながら支え合える関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の想いを受け、本人の意思を尊重し「家族が支える」という本人と家族の絆を大切にできるように支え、必要に応じて家族様と相談させていただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防により面会制限を設けているが、家族や知人との関係が途切れないように、電話等で会話や状況に応じて玄関先で面会出来るようにしている。また、家族様へは、ご本人の状況を電話や毎月のお手紙を通じて報告させていただいている。	理美容師の訪問で継続した馴染みの支援や近隣の桜見学で住民と挨拶を交わしている。家族と協力しての病院へ同行、玄関での窓越し面会や電話、墓参りなど関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格を個々に考え、利用者様同士が良い関係性で交流が出来るように、会話のきっかけ作りや環境の提供に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関や他の事業所との情報交換を行い、ご本人やご家族様との支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、一人一人の行動や会話などから意向をくみ取り、意思表示が困難な時には家族様にも相談しながら職員全員で検討している。	利用者とは日常支援の中での声かけを通して思いを把握している。困難な場合は表情、バイタルチェック、手の動きなどから思いを把握し、本人本意に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活情報や基本情報を、ご家族様から情報を通じて職員間で共有し、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、記録、申し送りの情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議の中で、より良く暮らすための課題やケアのあり方について話し合い、計画作成を行っている。	介護計画作成は利用者の希望を取り入れ、家族の協力を得て、担当者のケア記録を基にユニット会議で協議している。短期3か月、長期6か月毎に見直すと共に変化時は随時見直し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画はアセスメントとモニタリングを繰り返しながら、利用者、家族の要望や変化に応じた見直しが必要なことから、更なる充実したアセスメント記録を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果など記録し、職員同士が確認することでより良い支援が出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に必要な要望や希望に対しても、可能な限り柔軟な支援サービスの多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、安心して暮らすことが出来るよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診や情報の共有と提供を行っている。家族様と協力しながら、他の医療機関への受診支援も行っている。	利用者と家族が希望するかかりつけ医受診の継続支援をしている。家族同行や事業所対応の内容は受診報告書で共有している。協力医往診や訪問看護師が月2回、歯科の往診は随時行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関りの中で気づきを訪問看護師へ相談している。病状の変化がみられた際には、看護師や往診医へ連絡を取り相談し、指示を仰いでいる。		

グループホーム ぬくもりの里(せせらぎ)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各医療機関と連携を取り、入院や退院、相談など、常に行える関係性を築くよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前にご本人や家族様の希望・方針を確認している。状況に応じて家族様や医療機関と相談し、今後の方針について話し合いを行っている。必要に応じて在宅医療も取り入れて支援している。	入居契約時に重度化や終末期における事業所として可能な支援内容について利用者や家族の意向を尊重し、事業所として出来る事を説明している。重度化した場合は家族と随時話し合い、協力医療機関と連携し方針を共有している。	事業所は24時間医療連携体制が整い、入居契約時、重度化や終末期に向けた事業所のできる事を説明しているが、今後、「看取り方針」の対応などの書類整備に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをすぐに確認できるところに置き、対応できるようにしている。内部研修で訓練や紙面に読み合わせを実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施。また、マニュアルをもとに避難方法の実施・確認をしている。	年2回の昼夜想定火災避難訓練と令和4年1月に地震避難訓練を実施している。利用者も消火器での訓練に参加している。食料品、ポータブルストーブ、ガスコンロ、電池を備蓄している。自然災害発生時における業務継続計画は策定中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にあった声かけや時には親しみやすい言葉かけもあるが、人格やプライバシーを損ねないように対応している。	職員は接遇や対応に係る内部研修を受け、会議等で研修内容を話し合い、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中や行動などから、本人の思いや希望をくみ取り、自己決定が出来るように働きかけ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを大切に、本人らしい生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が以前生活されていた時の服装などを確認したり、入居時に持参された衣服に合わせて好まれるような身だしなみが出来るよう支援している。また、その人らしさの身だしなみの中にも、身体状態に合わせた素材も検討している。		

グループホーム めくもりの里(せせらぎ)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の体調を考慮しながら、役割を持つことが出来るように一緒に調理や片付けなどを行っている。	食材購入や献立、調理を職員が行い、誕生日や行事食は利用者の希望を取り入れ、出前の寿司や弁当で楽しんでいる。午前、午後におやつを提供やドライブを兼ね、ソフトクリームを食べたり、家庭菜園の野菜などで五感を刺激し食欲を高めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録や温度版に残し、協力医療機関に指導を仰ぎながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。個々の能力や状況に合わせて、磨き残しなどの確認も含めて観察し、必要時には介助を行う。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄版を使用し、個々の時間や声掛けなどの方法を把握出来るように努めている。パットやリハパンなど個々に合わせて使い分けを行い、出来る限りトイレでの排泄出来るよう支援している。	トイレでの排泄継続を目標に、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、表情や動作などを見ながら支援をしている。衛生用品の使用は日中や夜間帯の身体状況に応じて使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	協力医療機関との連携により、水分の促しや下剤の調整をし、個々の排便コントロールを行っている。水分や食事量、生活習慣にも気を付け、運動なども促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り希望を聞き入れるように心がけているが、ほぼこちらの都合で決めてしまっているのが現状である。	週2回の入浴を午前の時間帯で支援をしている。利用者の希望に沿った入浴を心がけているが、職員の異動を考慮し、直近での日時確定はしていないが、声かけや工夫をして清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて休息をとるなど、生活リズムが崩れないように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬については薬剤師より説明を受け、把握に努めている。日々の観察により、変化に気づけるよう体調の確認や身体の動き、表情などを観察している。状態変化の際には、往診医等と相談させていただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来ることを見つけ、生きがいや喜び、楽しみが出来るように支援している。		

グループホーム ぬくもりの里(せせらぎ)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナウイルスの影響もあり、外出を控えている。時折、少人数でのドライブを検討・実施している。また、敷地内の散歩も行っている。	散歩や家庭菜園を眺めたり、車椅子の利用者も近所の桜見学で住民と挨拶を交わしている。お盆は自宅に帰り、家族と墓参りに出かけている。1年間の行事計画に外出も企画し、コロナ感染状況や身体状況を見ながら支援につながるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所内で管理しており、ご本人が現金を所持することはないが、希望があれば都度対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から電話の希望や要望の際に、時間帯は相談しながらになるが、家族などとやり取りが出来るように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物などにより季節感を作るように心がけ、居心地よい生活空間づくりに努めています。	事務所は玄関からの出入りや緊急連絡通報装置、非常時対応系図などを確認できる場所にある。コロナ禍から導入したクリアライト加湿器と床暖房で温度、湿度の管理や定期的に換気を行い、過ごしやすい共用空間となっている。ひな祭りの飾りで季節感を採り入れたり、掲示物の工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間においては、ソファーなどを置いて、一人になれる場所を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室に関しては、私物の掲示物やテーブル、ベッドなどの配置も個々に考えて工夫し、居心地よく生活できるよう努めている。	利用者の使い慣れた生活用品、馴染みのタンスや椅子を持ち込み、安心して過ごすことができる居室となっている。床暖房とパネルヒーターで暖かく過ごせる居室には家族の写真を飾り、塗り絵をして穏やかに過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の自立に配慮した環境づくりに努めている。		